

Strix 11 : 341-342 (1992)

岩手・豊間根長内におけるヤツガシラの巣立ちと残巣雛の死について

藤井忠志¹

1. はじめに

ヤツガシラ *Upupa epops* は日本全国いたるところで目撃されているが、繁殖に関する記録は非常に少ない。本州では、1982年に長野県南佐久郡ではじめて繁殖が記録され、ここではそれ以後5年間続けて合計8回の繁殖を試みている(中村・柏木 1991)。これ以外には1986年に岩手県田野畑村で記録されているだけである。著者は、岩手県下閉伊郡豊間根長内地区の一農家で繁殖したヤツガシラの巣立ちと巣立ち後の巣内部を確認できたのでここに報告する。巣穴としては83年前に建てられた旧牛舎の柱と柱のあいだの長方形のすきまを使い、巣材は牛用に積まれたワラを利用していた。また営巣した旧牛舎の外板はいわゆる黄土色であり、これは本種の背面を除いた羽毛と非常に類似しており天敵から身を守るための防衛本能がなせる技?と推測している。これは前述した長野県と岩手県田野畑村での営巣環境とも類似している。

2. 巣立ちの状況

筆者が本種の繁殖情報を得てかけつけたのは6月19日午後5時30分で、そのときに巣口から顔を出していたヒナは1羽であった。6月15日午前5時40分には最初のヒナが巣立ち(佐々木弘 私信)、そのシーンが6月17日地元新聞社の夕刊をカラー版で飾ったり、テレビで放映されたことから、連日マスコミ陣やバードウォッチャーが日本全国からおしかけ、長内地区はちょっとしたヤツガシラフィーバーとなっていた。そして、6月18日には地元のテレビ局カメラマンが、午前7時~8時のあいだに巣穴から顔をのぞかせた2羽のヒナを確認していた。6月19日には巣口のヒナが1羽になっていたことから判断して、前日確認された2羽のうち1羽はその日の未明に巣立ったと思っていた。しかし、それは誰ひとり確認していなかった。私の確認したヒナの巣立ちは以下のようなものであった。

6月20日快晴。午前4時27分に親鳥がこの日はじめて現れ、母家のかわら屋根でこちらの様子をうかがう。親鳥は4時28分、巣口に飛来したがヒナは顔を出さず、4時29分、再飛来し巣口で中をうかがったが、ヒナが反応しないために巣穴前の柱にとまった。4時33分、ヒナはこの日はじめて巣口から顔を出す。4時34分、親鳥は巣口に飛来したが給餌せず、4時36分、47分に再度飛来したがやはり給餌しなかった。4時50分にこの日はじめて給餌され、52分にはもう一方の親により給餌が行われた。これ以降、ヒナは巣口に顔をのぞかせ、外の様子をうかがっていたが、5時33分チーッと2度ほど鳴いた。そして、5時46分チーッと鳴き、47分には親の姿をみて激しいチーッチー音を発し、いきなり巣立ちした。なお給餌の際の餌は、ミミズとカエルであった。

3. 死亡していたヒナ

6月20日、午前5時47分に最後であるはずのヒナが巣立ったにもかかわらず、親は6時23分、7時14分、21分、28分、34分に餌を運んできた。しかしながら巣内部からは何の反応もなく、親は巣口ですぐ飛去したりUターンしたりをくり返すばかりであった。そしてこの日は、8時05分を最後に姿を

1992年10月20日受理

1. 〒028-13 岩手県下閉伊郡山田町大沢1-14

現さなくなった。そして、21日にはヒナを2羽連れ合わせた合計3羽のヤツガシラ親子が、営巣初期からよく採食におとずれていた鳩田地区の畑（営巣地から約500m）で目撃された。さらに22日には親が日中2度給餌におとずれていることから、筆者は巣内部にヒナが残されているものと推定した。そこで家主にお願ひし、25日巣内部を確認していただいたところ、2羽のヒナが死んでいるとの情報を受けた。翌日、午前6時00分におとずれ、巣内部を確認すると、3羽のヒナが産座から1m内外のワラの上で死んでいるのがわかった。3羽とも外傷など、特別みうけられなかった。1羽はウジがわき、かなり腐敗が進んでいたが、ほかの2羽は比較的最近死亡したものであった。羽毛の状態から察すると、巣立ち前の育雛後期のものであり、1週間前後に死亡したものと推定された。1週間と言えばマスコミがさかんに押しかけ、巣周辺で陣どっていたところである。巣立ち前で親の餌減らしは確かな行なわれるが、巣立ちできないヒナは親からの給餌がなされなければ万事体すである。今回死亡した3羽のヒナは、巣立ち前後の雨という悪天候もさることながらマスコミやその他の悪影響により親鳥の給餌が妨害され、巣立ちに至らなかったと結論づけられる。

謝 辞

ヤツガシラの観察にあたって、家主の芳賀萬之助さんご一家には色々ご迷惑やご無理をお願いした。紙面を借りてお礼申し上げます。また情報を提供していただいた日本野鳥の会宮古支部の佐々木弘、高橋宏明両氏そして本稿執筆にあたりご援助いただいた樋口広芳氏には、心より感謝申し上げます。

引用文献

中村浩志・柏木喜久男. 1991. 日本に定住できなかった鳥 ヤツガシラ. 動物たちの地球 28: 7-115. 朝日新聞社, 東京.

Fledging of the Hoopoe *Upupa epops* in Oshanai Toyomane, Iwate and the death of nestlings

Tadashi Fujii¹

In June 1992, I observed one nest of Hoopoes *Upupa epops* in Oshanai Toyomane, Iwate Prefecture. There are very few reports on the breeding of this species in Japan. On 20 June 1992, I confirmed the fledging of the last young of the brood. The other three nestlings were found dead in the nest. I think the nestlings were disturbed to death by the reporters of the mass-media and many bird watchers who visited the nest to observe the nestlings or take their photo or video.

1. 1-14 Oosawa Yamada town, Shimoheigun, Iwate 028-13